

家庭科の資質・能力の育成等について

議題
(1)

高校の科目構成の在り方について

議題
(2)

家庭科の資質・能力等の在り方について

議題
(3)

系統性・体系性の整理について

議題
(1)

高校の科目構成の在り方について



高校の科目構成の在り方に関する論点

※第4回WGから再掲。追記修正箇所のみハイライト

1. 「家庭基礎」「家庭総合」の科目の在り方

(1) 「家庭基礎」「家庭総合」の趣旨・在り方について

【補足イメージ1：4ページ】

- 変化の激しい時代の中で、少子高齢化や地域のグローバル化など、生活を取り巻く環境は急速に変化している。
こうした中で、
 - ・個々人が地域や社会を構成する一員として、自立したり、
 - ・地域や社会を構成する人々と協力・協働したりしながら
よりよい生活を営む必要性が増している。
- 家庭科においては、個人や家族のよりよい生活や持続可能な社会の形成に向けて
 - ・科学的な根拠に基づく理解や、
 - ・問題解決的な学習を通して、多様なライフスタイルに応じて自ら実践する力の育成
 - ・主体的に社会に参画する意識の向上
がこれまで以上に求められている。
- 第4回WGの議論を踏まえ、次頁のとおり「家庭基礎」「家庭総合」の「基本的な方向性（案）」を再整理し、併せて、家庭科における目標や新しい「見方・考え方」について、再整理してはどうか。

＜参考＞ 空間軸の視点：小学校…自分と家族・家庭
 中学校…家族・家庭や地域
 高等学校…家族・家庭、地域及び社会
 時間軸の視点：小学校…現在及びこれまでの生活
 中学校…これからの生活を展望した現在の生活
 高等学校…生涯を見通した生活

※各視点の学習対象は、当該学校種の主たるものを明記しており、必ずしも上記に記載されているものに限っているわけではないことに留意。

(2) 家庭総合の領域に関する整理 【補足イメージ1（参考）：5ページ】

- 家庭総合における領域横断した実践的・体験的な活動について
 - ・「家庭総合」においては、A領域からE領域を貫く現代的な諸課題について、実践的・体験的な活動を通じた、問題解決的な学習を行う新たな領域（F領域「生活探究（仮称）」）を設けることとしてはどうか。

2. 科目目標の在り方 【補足イメージ2：6ページ】

- 「1. 「家庭基礎」「家庭総合」の科目の在り方」の基本的な方向性（案）を踏まえつつ、高校の教科目標と同様に以下の方向で整理することとしてはどうか。
 - ・ 現行の学習指導要領における内容の系統性の明確化については一定の成果が上がっていることを踏まえ、目標においても、**小・中・高等学校の系統性の明確化を図るという方向性は引き継ぐ**方向で検討してはどうか。
 - ・ その際、**空間軸・時間軸の視点から、学習対象の広がり**を明示することとしてはどうか。具体的には、家庭基礎は、**自分の生涯や地域及び社会**を学習対象とし、家庭総合は、さらに空間軸・時間軸を広げ、**社会などの生活について俯瞰しながら問題を捉えたり、自分の生涯のその先の世代の生活まで視野を広げたりする**こととしてはどうか。
 - ・ また、「家庭総合」については、社会が複雑化・多様化する中で、適切な判断を通じて生活をよりよくすることができるようにするため、**実践を「多角的・総合的」に評価・改善する観点を追記**することとしてはどうか。
 - ・ 「学びに向かう力・人間性等」については、①当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度と②当該教科等の学習で育みたい情意・感性の構成で見直すこととしてはどうか。

議題1 「家庭基礎」「家庭総合」の科目の在り方及び科目目標の在り方について

- ✓ 前回WGでの議論を踏まえた修正案について、どのように考えるか。

各科目の趣旨等を明確化しつつ、「基本的な方向性（案）」として、以下の網掛け部分（ピンク色）のとおり整理してはどうか。

現行

現・家庭基礎

実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する

- ・基礎的な理解
- ・実践的・体験的な活動
- ・技能を身に付ける
- ・問題解決的な学び

【課題】

- ・内容が多岐にわたるため、問題解決的な学びが限定的

現・家庭総合

実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する

- ・科学的な理解
- ・実践的・体験的な活動
- ・技能を体験的・総合的に身に付ける
- ・問題解決的な学び
- ・生活文化の継承

【課題】

- ・「家庭基礎」との差異が分かりにくい

改善案

※第4回WGから追記修正箇所のみハイライト

新・家庭基礎

（第4回）自立した生活を営む主体として、社会に参画し、他者と協働しながら、よりよい生活を創り出すために必要な力を育成する

- （今回）
- ・自らの生活を営み、家庭や地域の生活を支える力を育成する科目
 - ・科学的根拠に基づく知識を基礎的に理解し、実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活に向けて、生活上の課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力を育成する

- 小・中学校からの学びの系統性を重視しつつ、科学的な根拠に基づく知識の基礎的な理解と、実験・実習等の実践的・体験的な活動を通して、質の高い学びへと繋げていく（実践的・体験的な活動を通じた学習の着実な実施）
- 自立した生活を営み、家庭や地域の生活を支えるために、社会に参画し、他者と協働しながら、主体的によりよい生活に向けて、課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力の育成に必要な内容を扱う

（イメージ）

- ・食生活の内容は、小・中学校の食生活に関する知識及び技能を総合的に活用し、例えば、科学的な根拠に裏付けられた食品の特質の理解を基に、ライフステージに応じた献立を整える力を育成する
- ・生涯の生活設計や生活における経済の計画等の内容を充実させ、自立する力の育成に繋げる

新・家庭総合

（第4回）自立した生活を営む主体として必要な力に加え、率先して家庭や地域の生活を支え、向上させる主体として、社会に参画し、多様な他者と協働しながら、よりよい生活を探究的に創り出すために必要な力を育成する

- （今回）
- ・家庭基礎で培う力に加え、多面的に生活を捉え、家庭や地域の生活を向上させる力を育成する科目
 - ・科学的根拠に基づく知識を総合的に理解し、領域を横断した実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活に向けて、生活上の複雑な課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力を育成する

- 科学的な根拠に基づく知識の総合的な理解と、領域を横断した実践的・体験的な活動を往還させることで、より質が高い深い学びへと繋げていく（実践的・体験的な活動を通じた問題解決的な学習をより充実）
- 広い視野で生活を捉え、地域や社会の関わりの中で、社会に参画し、他者と協働しながら、主体的によりよい生活に向けて、複雑な課題を適切に捉え、改善のために判断し、実践する力の育成に必要な内容を扱う
- 柔軟な教育課程の編成を促進するための課題の改善（隔年での実施や第1学年から第3学年まで連続して履修する形を認める見直し）
- 次世代への継承を重視する観点から、生活文化の継承・創造に関する内容を充実

（イメージ）

- ・食生活においては、「家庭基礎」で学ぶ科学的な理解に加えて、例えば、食品加工実験等を通して食品加工の意味について理解するとともに、食品に含まれる成分とその調理上の性質に関する深い理解につなげる
- ・高齢者の福祉や共生社会等の内容について、例えば、高齢者が安心・安全に暮らせる地域社会を率先して支え、向上させる力を育成するために、認知症などの学習を基にして、地域の当事者と交わりながら課題解決に向けて考える学習活動

○ 「家庭基礎」及び「家庭総合」の学習イメージは以下のとおり。特に、家庭総合については、家庭基礎での学習に加え、これまでの学習と領域を横断した実践的・体験的な活動を通した問題解決的な学習を往還した学習を行うことを想定。

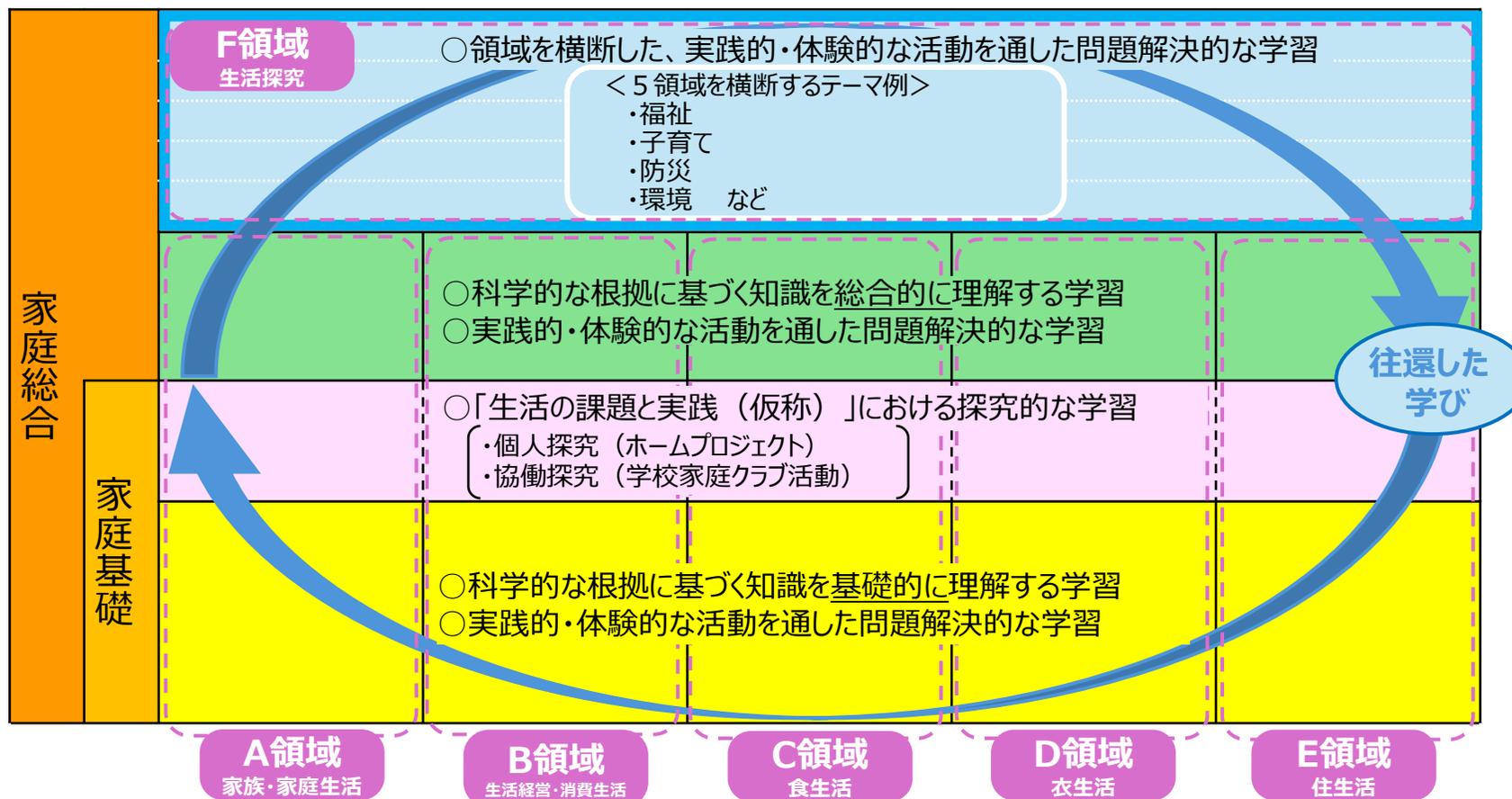
<参考>

・「生活の課題と実践（仮称）」における探究的な学習：

一つの領域を主として生徒が課題を設定し、他領域と関連させながら、課題解決に取り組むイメージ。

・領域を横断した、実践的・体験的な活動を通した問題解決的な学習：

学校の状況等に応じて、例えば、「福祉」などの領域を貫くテーマを教師が意図的に設定し、生徒が多角的な視点から課題解決に取り組むイメージを想定。



※上記の図はイメージであり、学習の分量・時数を示すものではない
 ※領域の名称はいずれも仮称

小・中・高等学校の家庭科の目標等について <改善案>

下線：現行からの変更。黄色ハイライト：第4回WGを踏まえた修正、新たな提示事項。青字：教科・科目間の相違点

目標・柱書

小学校	自分や家族・家庭の生活をよりよくしようと工夫する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
中学校	家族・家庭や地域における生活をよりよくしようと工夫し創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
高校	家族・家庭、地域及び社会における生活をよりよくしようと創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
家庭基礎	家族・家庭、地域及び社会における生活をよりよくしようと適切に捉え、改善のために判断し、実践しながら創造する資質・能力について、実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。
家庭総合	家族・家庭、地域及び社会における生活をよりよくしようと適切に捉え、改善のために判断し、実践しながら創造する資質・能力について、領域を横断した実践的・体験的な活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	自分や家族・家庭の生活の中から問題を見だして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を多角的に評価・改善し、考えたことを表現するなど、日常生活の課題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活を大切にすることを育むとともに、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 自分や家族・家庭の生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
中学校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生活の自立に向けて必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、生活の自立に向けて課題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 家族や地域の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
高校	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
家庭基礎	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な根拠に基づき基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を多角的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。
家庭総合	家族・家庭生活、生活経営・消費や衣食住などについて、生涯にわたり生活を主体的に営むために必要な科学的な根拠を踏まえた総合的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域及び社会における生活を俯瞰しながら問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、領域を横断した実践を多角的・総合的に評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯やその先を見通して生活の課題を解決する力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 家族・家庭や地域及び社会の一員として、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。 家族・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、その解決に向けて、対話や協働により考えを広げ深め、工夫・改善を重ねる態度を養う。

新しい「見方・考え方」

小・中・高等学校	自分や家族の生活の営み（当該教科で扱う事象や対象）を、地域や社会との関わりの中で、持続的なものとする視点から多角的（当該教科固有の物事を捉える視点）に捉え、主体的によりよい生活を創り出す（当該教科固有の考え方や判断の仕方）こと
----------	---

【参考】家庭科の目標等について <現行学習指導要領>

目標・柱書

青字：学校段階間の相違点

小学校	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
中学校	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
高校	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
家庭基礎	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
家庭総合	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	家庭生活を大切にできる心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
中学校	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
高校	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。
家庭基礎	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
家庭総合	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

「見方・考え方」

小・中・高等学校	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること
----------	--

議題
(2)

家庭科の資質・能力等の在り方について



家庭科の資質・能力の在り方について

1. 高次の資質・能力について

(1) 教育課程企画特別部会における議論

- 家庭ワーキンググループにおいては、これまで目標や見方・考え方、高次の資質・能力について学校種別に議論を重ね、第4回会議においてとりまとめた案を、教育課程企画特別部会に提示したところ。
- 第14回教育課程企画特別部会（令和8年2月2日開催）において、各WGにおける資質・能力の構造化の検討状況の一覧が示され、論点整理で示された資質・能力の構造化の趣旨や、総則・評価特別部会で整理したチェックポイント等を踏まえた検討がなされたところ、以下の7つの観点については共通して引き続き精査を要すると整理されている。
そのうち、「高次の資質・能力」の検討に当たって以下の観点を踏まえ、改めて検討いただきたい。【14～16ページ参照】

①資質・能力の深まりの可視化

②分かりやすさ、シンプルさの一層の追究

- ③「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査
- ④今般の構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化
- ⑤用語の一層の整理・検討
- ⑥趣旨を実現するための教科書の在り方の更なる検討
- ⑦構造化・表形式化・デジタル化・調整授業時数・個に応じた学習過程の関係性の整理

(2) 検討の方向性

- 高次の資質・能力について、「(1) 教育課程企画特別部会における議論」①と②を踏まえ、さらに内容のブラッシュアップを図る方向で検討してはどうか
- また、議題1の「家庭基礎」「家庭総合」の基本的な方向性（案）を踏まえ、再整理することとしてはどうか。

議題2 高次の資質・能力の在り方について

- ✓ 高次の資質・能力について、教育課程企画特別部会の議論等も踏まえ、どのように考えるか。特に、「家庭総合」の新領域の高次の資質・能力についてどのように考えるか。



資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性（案）

- 各WGにおける資質・能力の構造化の検討状況を一覧化し、本部会の論点整理で示した資質・能力の構造化の趣旨や、総則・評価特別部会で整理したチェックポイント等を踏まえ検討したところ、以下1～7については共通して精査を要するのではないかと
- ✓ これら以外に、各WGに対して個別に指摘すべき事項や、各WG共通で検討を要する事項はないか
- ✓ 本日の議論を踏まえて、引き続き総則・評価特別部会や各WGにおいて資質・能力の構造化の具体についてさらに検討を深めることとしてはどうか

1. 資質・能力の深まりの可視化

- 今般の構造化を通じ、「深い学び」が実現したイメージを教師が具体的に持つことができるようにすることが重要。（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」B関連）
- こうした視点で見た際に、抽出された「高次の資質・能力」のうち特に「統合的な理解」については、依然として個別の知識及び技能が不足なく身に付いた状態を「要約」して示すに留まっているものも見られる。
- 個々の知識・技能が単に網羅されているかではなく、「指導を通じて学びが深まったときの児童生徒の姿をイメージできるような確に示せているか」といった観点から、各WGで記載を見直し、個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、「統合的な理解」となった児童・生徒の姿を描き出せるよう更に検討すべきではないか。

2. 分かりやすさ、シンプルさの一層の追究

- 「深い学び」を実現する具体的なイメージを持つことができるようにするためには、学習指導要領の記述が、教師にとって分かりやすく、学校を通じて保護者や地域住民等に伝えやすいものであることも重要。（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」D関連）
- こうした視点で見た際に、整理されている「見方・考え方」や「高次の資質・能力」の中には依然として記載が冗長であったり、理解が難しい用語を用いて表現されているものも散見される。
- 各教科等の本質や育みたい資質・能力を十分に表現可能な範囲において、解説との役割分担も含め（教科等の本質的な意義に焦点化できているかという視点から精査）、一層分かりやすくシンプルに示すことが可能かどうか、引き続き各WGで検討してはどうか。

3. 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査

- 総則・評価特別部会においては、「高次の資質・能力」の全体を暫定的に整理した後、それらを基に各教科等WGにおいて個別の資質・能力の検討を行う際の方向性として以下を示した。（【資料1】P7）

「各教科等WGにおいて、整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する。その際、表形式での示し方、「高次の資質・能力」の獲得に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための余白が十分にあるかといった視点からも検討」

- 今後、上記の方向性に加え、下記の留意点も踏まえつつ、各教科等WGで個別の資質・能力の整理と必要に応じた精選の検討を進めてはどうか
 - ✓ 暫定的に現行学習指導要領の内容に基づき、高次の資質能力を整理してきたWGもあることから、今後の検討にあたっては、現行の指導内容が全て等しく重要であると安易に判断しないように留意する必要
 - ✓ 個別の資質・能力を検討していく中で「高次の資質・能力」の在り方についても往還しながら更に改善を図っていく必要

その他「高次の資質・能力」での構造化に当たり留意すべきポイントについて

（「高次の資質・能力」について）

- 単学年ごとに「高次の資質・能力」を示している場合などで、「高次の資質・能力」が個別の内容事項と近接してしまい資質・能力の深まりが示せていないものもあり、そういった場合は複数の「高次の資質・能力」をまとめて水準を上げることも考えられるのではないかと
- 特に「総合的な発揮」については、学びの成果として達成して欲しい姿として重要であると同時に、学習過程において、状況に応じて思考力・判断力・表現力を選択したり組み合わせたりしながら、繰り返し発揮される中で育成されていく側面を有するという視点も踏まえた示し方とすべき（一方、学習過程自体を記述するものではないことに留意が必要）
- 「高次の資質・能力」については、深い学びを実現する授業のイメージを教師が持てるようにする視点に加えて、児童生徒の多様性を包摂する授業づくりを進めるために活用するという視点も重要。このため、児童生徒の多様性を踏まえた多様なアプローチが許容されるものとなっている必要がある、そのためにも、特定の活動を想起させる狭い記載ではなく、できる限りスリムで骨太な記載とすべき

（学校段階の特性を踏まえた共通性の確保について）

- 多くの教科を指導する小学校の教員から見ると、教科間の記載にばらつきが大きすぎると理解が進まない恐れ。各教科等の特性を踏まえつつも、各学校段階では一定の共通性を持って見られるよう抽象度の高さを含め一定の平準化が必要。他の学校段階や他教科等の表現も参考にしつつ、当該学校段階の発達段階を踏まえた「深い学び」の姿を具体的にイメージできるようになるかという共通の視点をもって検討が必要

（資質・能力の3つの柱の性質を踏まえた整理について）

- 並列パターン、並行パターンといった形式上の違いはあれど、資質・能力の整理は本質的なところで共通している必要。特に「思考力・判断力・表現力等」については、これまでに習得した知識や技能を活用して、実社会・実生活などの場面を想定した課題解決に近い形で資質・能力を発揮するという性質の柱であり、「知識及び技能」とりわけ技能との適切な整理が必要。「学びに向かう力・人間性等」は「思考力・判断力・表現力等」の中で見取る方向で検討していることも踏まえ、異なる整理をしている教科においては、引き続き検討が必要

4. 今般の構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化

- 「高次の資質・能力」を基にした今般の構造化・表形式化は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」について学びの深まりを可視化するとともに、それらを一体的に育成する学習の在り方を示し、教師一人一人が「深い学び」を具現化しやすくすることを目指すもの。
- 一方で、整理・構造化された資質・能力について理解を深めることと、それらを活用して実際の単元・授業づくりに活かすこととの間には依然としてギャップがあるものと考えられる。「資質・能力」の深まりを捉えた後、それを実現する単元・授業をどのように構想し、実践に繋げていけばよいかを考えることは、特に経験の浅い教師にとっては、難しい場合もある。
- そのため、構造化・表形式化する学習指導要領について、単元・授業づくりのどういった場面でのどのように活用することで授業改善に繋げていくことができるのか、各教科等ごとに参考イメージを示すことにより、指導主事や経験が豊かな教師が、経験の浅い教師を指導する際のイメージを共有できるようにすることを検討してはどうか。（補足イメージ参照）
- ※ このことに関わって、前回改訂時の中教審答申においては各教科等固有の「深い学び」を実現する学習過程を精緻に示す試みが行われたが、多くの要素が盛り込まれ、教科等によっては複雑で実現が難しいものとなったとの指摘もある。また今般、個別最適な学びの実現の観点も踏まえ、「個に応じた学習過程」の充実を目指すこととしている。これらを踏まえると、今回は単一の学習過程を整理するのではなく、子供一人一人が深い学びを実現するための専門職としての教師の多様な単元・授業づくりを支えるという視点から、上記のように、構造化・表形式化された学習指導要領の活用イメージとして、参考資料を示すことが適当ではないか。
- ※ その際、このイメージはあくまでも参考の一つとして示し、現場の実践を過度に縛るものにならないよう留意が必要。実践者が子供の実態を踏まえて、多様で豊かな単元・授業づくりを行う際の足掛かりの一つと位置づけてはどうか。

5. 用語の一層の整理・検討（高次の資質・能力）

- 企画特別部会では、今回の学習指導要領の一層の構造化の核となるものとして、「知識及び技能」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思考力・判断力・表現力等」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んで整理していたところ。
- これらの用語について、総則・評価特別部会では、新たな用語が増えることを避け、一人一人の教師が現行の学習指導要領の延長線上に今回の構造化を理解することができるようにする観点から、資質・能力の深まりを示すものを「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」、それらをまとめて「高次の資質・能力」と呼ぶことと整理した。（【資料1】P3参照）
- 「統合的な理解」「総合的な発揮」の呼称については、今回の構造化の趣旨の理解を進める上で効果的に働いている一方、「高次の資質・能力」という語については、各教科等WGでは、学校現場には単に「レベルの高い高度な資質・能力」として受け取られる等の誤解を招くのではないかといった懸念もあったところ。
- こうしたことも踏まえ、「高次の資質・能力」という用語については、今回の構造化を検討・議論する上の「足場」としては重要であり引き続き使用することしつつも、実際に学習指導要領を告示する段階に向けて、更に適切な語があればそれを用いることとするか、または告示文の中ではあえて用いない（「統合的な理解」「総合的な発揮」のみで説明）こととしてはどうか。

6. 趣旨を実現するための教科書の在り方の更なる検討

- 企画特別部会の論点整理においては、今般の構造化の趣旨を踏まえて教科書の内容は「統合的な理解」「総合的な発揮」をつかみ取りやすくなるものに精選していくとともに、その分量の在り方に関しては、調整授業時数制度の下で、調整後の時数で十分に指導可能なものとなるよう検討すべきとの方針を示している。
- 一方で、教科書会社からは、そうした「高次の資質・能力」をつかみ取りやすい教科書は具体的にどのようなものかイメージが湧きにくいという声もあり、総則・評価特別部会においては、各教科等WGにおいて「高次の資質・能力をつかみやすい当該教科等の教科書の在り方について、内容の精選の在り方も含めて検討を行う」方針が示されているところ。（【資料1】P7）
- これらの方針を踏まえつつ、各教科等WGにおいては、
 - 3. に示す個別の資質・能力の整理と必要に応じた精選の検討を着実に進めていくとともに、
 - 「高次の資質・能力をつかみ取りやすい単元・授業づくり」に資する観点から、現在の教科書のどのような内容を精選対象とすることが考えられるか、またどのような構成上の工夫が考えられるかといった点についてのアイデア出しを行い、教科書会社における教科用図書の編纂の参考となるよう検討を進めることとしてはどうか。
- 中央教育審議会におけるこれらの検討状況も踏まえつつ、調整授業時数制度を活用して標準を下回って時数を設定した後の授業時数でも、教科用図書の内容を適切に取り扱った指導が可能となるような教科書編纂を促すための仕組み作りなどについて、検定調査審議会において具体的に検討することとしてはどうか。

7. 構造化・表形式化・デジタル化・調整授業時数・個に応じた学習過程の関係性の整理

- これまで、学習指導要領の構造化・表形式化と、デジタル化、調整授業時数制度をはじめとする柔軟な教育課程編成を促す仕組み、個に応じた学習過程の充実については、それぞれ一定の検討時間を要するものであったため、トピックを分けて具体化の議論を進めて来た。
- もとより、これらの方策はいずれも密接に関連している（※）ものであることから、トピックごとに一定の具体化が進んできた現段階において、相互の関係を改めてしっかりと可視化し、学校現場が一体的に理解できるよう示していくことが重要ではないか。

（※）相互の密接な関連の例

- 「高次の資質・能力」に基づく構造化・表形式化は、各教科等の「深い学び」を実現しやすくするために重要であるだけでなく、各学校が子供の実態に応じた柔軟な教育課程を編成したり、個に応じた多様な学習過程を充実する中であっても、外してはならない教育課程の「軸」を明確化する役割も有している。
- 「高次の資質・能力」で示した教育課程の「軸」をおさえつつ、子供の実態に合わせた柔軟な教育課程を編成・実施していく上では、系統性を確保しながら多様な実践アイデアを練る必要がある。このため、学習指導要領に示された内容を様々な角度から比較・参照して理解することや、データで出力して進捗管理に活用することを可能とするなど、学習指導要領のデジタル化による利便性の向上・活用幅の拡大が効果的と考えられる。
- 多様な子供一人一人に深い学びを実現していくためには、調整授業時数制度を用いて学校レベルでの教育課程を柔軟化することも重要であるが、その先に個々の児童生徒のレベルでの学習過程の質が個に応じたものとして改善していくことが求められる。そのためには、学習方略の指導等を含め、個に応じた学習過程の充実を支える方策の充実が重要となる。
- そのため、今後総則・評価特別部会において、これらの方策がどのように相互に関連しているかを一層明らかにしつつ、その結果としてどのような単元・授業づくりを目指そうとしているのかを取りまとめにおいて可能な限り示していくことが考えられるのではないか。

家庭科の高次の資質・能力のイメージ①（小・中・高等学校：家族・家庭生活、生活経営・消費生活）

※学習内容については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる
 ※本表は検討の便宜上の表現であり、実際には、区分を横断する学習内容も存在することに留意

※ハイライトは第4回WGからの修正箇所

		小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
A 家族・家庭生活 (仮称)	統合的な理解	自分が家族の一員であることを自覚し、生活の中で自分にできることを考え取り組むことが、家庭生活をよりよくすることに繋がることを理解する。	自分が家族や地域を支える一員であることを自覚し、生活の中で自分にできることを考え取り組むことが、家庭生活をよりよくすることに繋がることを理解する。	自立した生活を営む当事者であることを自覚し、様々な人々の生活を理解して、共に協力し合うことが、家庭や地域の生活をよりよくすることに繋がることを理解する。	家庭や地域の生活を支え、向上させる当事者であることを自覚し、様々な人々の生活を理解して、共に協力し合うことが、家庭や地域の生活をよりよくすることに繋がることを理解する。
	総合的な発揮	家族の一員として、家族や地域の人々と協力し合う中で自分の生活上の課題を見だし、よりよい生活に向けて工夫することができる。	家族や地域の人々と協力・協働する中で自分の生活上の課題を見だし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。	家族や地域の人々と協力・協働する中で家庭や地域及び社会の生活上の課題を見だし、自立した生活を営む当事者として、よりよい生活を創造することができる。	家族や地域の人々と協力・協働する中で家庭や地域及び社会の生活上の複雑な課題を適切に見だし、家庭や地域の生活を支え、向上させる当事者として、よりよい生活を創造することができる。
B 生活経営・消費生活 (仮称)	統合的な理解	生活を営む上で必要な資源を有効に活用することが、自分の生活をよりよくすることに繋がることを理解する。	生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することが、自分の生活をよりよくすることに繋がることを理解する。	生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することが、生涯にわたって生活をよりよくすることに繋がることを理解する。	生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用することが、生涯やその先を見通し、家庭や地域の生活をよりよくすることに繋がることを理解する。
	総合的な発揮	家族の一員として、生活を営む上で必要な資源を効果的に活用しながら、自分の生活上の課題を見だし、よりよい生活に向けて工夫することができる。	生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、自分の生活上の課題を見だし、自立に向けてよりよい生活を工夫し、創造することができる。	生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、家庭や地域及び社会の生活上の課題を見いだしたり、適切に意思決定したりすることで、よりよい生活を創造することができる。	生活を営む上で必要な資源を持続的かつ効果的に活用しながら、家庭や地域及び社会の生活上の複雑な課題を適切に見いだしたり、意思決定したりすることで、よりよい生活を創造することができる。

家庭科の高次の資質・能力のイメージ② (小・中・高等学校：食生活、衣生活)

※学習内容については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる
 ※本表は検討の便宜上の表現であり、実際には、区分を横断する学習内容も存在することに留意

※ハイライトは第4回WGからの修正箇所

		小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
C 食生活 (仮称)	統合的な理解	栄養バランスを考えた食事を楽しむことが、自分の食生活をよりよくすることに繋がることが理解する。	地域の豊かな食文化を大切に、健康で安全な食生活を送ることが、自分の食生活をよりよくすることに繋がることが理解する。	科学的な根拠を基に、地域の豊かな食文化を大切に、ライフステージに応じて健康で安全な食生活を送ることが、食生活をよりよくすることに繋がることが理解する。	科学的な根拠を踏まえた多面的な理解の基に、地域の豊かな食文化を大切に、ライフステージに応じて健康で安全な食生活を送ることが、家族や地域の人々の食生活をよりよくすることに繋がることが理解する。
	総合的な発揮	自分の食生活上の課題を見だし、健康でよりよい食生活に向けて工夫することができる。	自分の食生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・安全で食文化を大切にしたいよりよい食生活を工夫し、創造することができる。	自分や家族及び地域における食生活上の課題を見だし、生涯にわたって健康・安全で食文化を大切にしたいよりよい食生活を創造することができる。	自分や家族や地域における食生活上の複雑な課題を適切に見だし、生涯やその先を見通し、食文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・安全でよりよい食生活を創造することができる。
D 衣生活 (仮称)	統合的な理解	衣服を手入れしながら着用したり、製作を楽しんだりすることが、自分の衣生活をよりよくすることに繋がることが理解する。	衣服を選択し手入れしながら計画的に着用したり、生活に役立つものを製作したりすることが、自分の衣生活をよりよくすることに繋がることが理解する。	科学的な根拠を基に、日本の衣文化を大切に、ライフステージに応じて健康・快適・安全な衣生活を送ることが、衣生活をよりよくすることに繋がることが理解する。	科学的な根拠を踏まえた多面的な理解の基に、日本の衣文化を大切に、ライフステージに応じて健康・快適・安全な衣生活を送ることが、家庭や地域の人々の衣生活をよりよくすることに繋がることが理解する。
	総合的な発揮	自分の衣生活上の課題を見だし、健康・快適でよりよい衣生活に向けて工夫することができる。	自分の衣生活上の課題を見だし、自立に向けて健康・快適でよりよい衣生活を工夫し、創造することができる。	自分や家族及び地域における衣生活上の課題を見だし、生涯にわたって健康・快適・安全で衣文化を大切にしたいよりよい衣生活を創造することができる。	自分や家族や地域における衣生活上の複雑な課題を適切に見だし、生涯やその先を見通し、衣文化を大切にしながら、家族や地域の人々のために健康・快適・安全でよりよい衣生活を創造することができる。

家庭科の高次の資質・能力のイメージ③（小・中・高等学校：住生活、生活探究（仮称））

※学習内容については現行学習指導要領をベースとしたものであり、今後の議論で見直しがありうる
 ※本表は検討の便宜上の表現であり、実際には、区分を横断する学習内容も存在することに留意

※ハイライトは第4回WGからの修正箇所

		小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
E 住生活 (仮称)	統合的な理解	季節の変化を感じつつ、日頃から住まいを整えておくことが、自分の住生活をよりよくすることににつながることを理解する。	自分や家族が快適・安全に過ごせるよう日頃から住まいを整えておくことが、自分や家族の住生活をよりよくすることににつながることを理解する。	科学的な根拠を基に、日本の住文化の大切にし、ライフステージに応じて健康・快適・安全な住生活を送ることが、住生活をよりよくすることににつながることを理解する。	科学的な根拠を踏まえた多面的な理解の基に、日本の住文化の大切にし、ライフステージに応じて健康・快適・安全な住生活を送ることが、家庭や地域の人々の住生活をよりよくすることににつながることを理解する。
	総合的な発揮	自分の住生活上の課題を見だし、快適でよりよい住生活を工夫することができる。	自分や家族の住生活上の課題を見だし、自立に向けて快適・安全でよりよい住生活を工夫し、創造することができる。	自分や家族及び地域における住生活上の課題を見だし、生涯にわたって健康・快適・安全で住文化を大切にしたいよりよい住生活を創造することができる。	自分や家族や地域における住生活上の複雑な課題を適切に見だし、生涯やその先を見通し、住文化を大切にしながら、家庭や地域の人々のために健康・快適・安全でよりよい住生活を創造することができる。
F 生活探究 (仮称)	統合的な理解				
	総合的な発揮				家庭や地域及び社会における住生活上の現代的な諸課題について、課題を適切に見だし、家庭や地域及び社会の生活を向上させることで、よりよい生活を創造することができる。

議題
(3)

系統性・体系性の整理について



小・中・高等学校の系統性・体系性の整理に関する論点

1. 現状等

- 現行の学習指導要領では、**小・中・高等学校の内容の系統性の明確化**を図るとともに、**問題解決的な学習について、計画、実践、評価・改善するという一連の学習過程を重視**する方向で整理を行っている。
- この改訂により、第1回WGでも報告したとおり、身近な生活の課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等については、**日常生活の中から課題を見だし、解決すべき課題を設定することに成果**も見られる。
- また、第2回WGにおいて、少子高齢化や電子マネーの普及など、**社会の変化に伴い、家庭生活も変化**しているため、**児童生徒の生活の実態、発達段階に応じた内容や、家庭科として本質に重要な内容等について改めて整理**していく必要があることや、**利便性を優先した生活の普及により失われつつある家庭・地域の生活文化の継承**も念頭においた教育内容等の在り方について、検討する必要がある旨を論点としたところである。
- 更に、論点整理では、中学校の技術・家庭科が「情報・技術科（仮称）」と「家庭科」に分かれることが示されており、また、高等学校の「家庭基礎」「家庭総合」を再整理したことを踏まえて、**小・中・高等学校の内容の系統性・体系性を整理**することが必要となっている。

2. これまでのWGでの議論

- これまでのWGでの議論において、目標や高次の資質・能力等における**小・中・高等学校の系統性の明確化**を図るため、次のとおり議論が行われた。
 - ✓ **各領域の系統性を高める方向で領域を5領域に見直し**
 - ✓ **空間軸・時間軸の視点から、学習対象の広がりを明示**

(参考)

(1) 新しい領域

- A 家族・家庭生活（仮称）
- B 生活経営・消費生活（仮称）
- C 食生活（仮称）
- D 衣生活（仮称）
- E 住生活（仮称）

(2) 空間軸・時間軸

- ①空間軸の視点：小学校・・・自分と家族・家庭
中学校・・・家族・家庭や地域
高等学校・・・家族・家庭、地域及び社会
- ②時間軸の視点：小学校・・・現在及びこれまでの生活
中学校・・・これからの生活を展望した現在の生活
高等学校・・・生涯を見通した生活

※ 各視点の学習対象は、当該学校種の主たるものを明記しており、必ずしも上記に記載されているものに限っているわけではないことに留意。



小・中・高等学校の系統性・体系性の整理に関する論点

3. 整理の方向性（案）

- 小・中・高等学校の内容については、これまでの議論等も踏まえつつ、以下のとおり**小・中・高等学校について系統性・体系性**を見直す方向で検討してはどうか。

（1）整理にあたっての基本的考え方（案）

【補足イメージ4：22～27ページ】

- ・ 社会変化への対応等を踏まえた内容の充実を図る際、全体として学習内容を増加させず、一定の精選を図る観点から、以下のように教育内容を整理する際の考え方を示すことの適否についてどのように考えるか。

＜整理の考え方＞

- ①家庭科の「**高次の資質・能力**」を育成するために必要な内容となっているか。
 - 調整授業時数制度により標準を下回って柔軟に時数設定される場合も考慮する必要。このような視点も含め、深い学びを実現するための授業づくりの具体的なイメージ例の提示と併せ、高次の資質・能力に照らして内容項目の精選を図ることも検討
- ②**小・中・高等学校の各内容の枠組みと対象の系統性・体系性**が明確か（**校種間や科目間で重複している内容**は、児童生徒の発達段階に応じ、**適切な学校種や科目に位置付けるよう再整理**）
 - 他教科等との内容と重複する内容についても、家庭科の資質・能力を育成する上で**真に必要な内容**なのかを踏まえて整理することも検討
- ③社会変化への対応や生活文化の継承の観点から**真に必要な内容**が含まれているか
- ④高等学校の「家庭基礎」「家庭総合」は、「**基本的な方向性（案）**」を踏まえた内容となっているか

（2）具体的な内容の整理（案）

- 整理にあたっての基本的な考え方を踏まえ、以下のとおり各領域の内容について、整理する方向で検討してはどうか。

①各領域共通の内容項目の整理

- 各領域の内容項目については、新たに5つの領域（家庭総合は6つ）に見直したことを踏まえ、以下の考え方を踏まえて内容項目を整理してはどうか。
 - ・ 小・中・高等学校の系統性や、空間軸・時間軸の視点からの学習対象の広がりを含む内容項目を整理
 - ・ 一方、領域固有の特性もあることも配慮して整理
- ※例えば、小・中学校においては、これまでの自分や現在の自分の視点に立った学習を行う一方で、高等学校においては、生涯発達に伴う様々なライフステージの視点に立った学習を行う等、学校段階による学習上の視点の違いに基づく整理が必要。

②領域ごとの内容項目の整理 【補足イメージ3：21ページ】

「A 家族・家庭生活」（仮称）

○基本的考え方

現行学習指導要領の内容Aのうち、生活を営む主体となる「人」に関する学習内容を整理し、新A領域を構成。

○内容項目の系統性

小・中・高等学校の系統性を重視し、現行の内容Aの中から生活を営む主体となる「人」に関する内容項目について、次の4項目で整理してはどうか。

その際、小・中・高等学校のいずれにおいても、現行学習指導要領と同様に家庭科の学習の導入となる内容項目を設け、最初に学習することとしてはどうか。

- ・自分と家族・家庭・・・自分の成長と自覚、家庭生活との関わり、家族・家庭の機能など
- ・乳幼児の生活（中・高のみ）・・・幼児の発達と成長、親の役割と保育など
- ・地域との関わりや共生社会・・・地域の人々との協力・関わり方、福祉や社会的支援など
- ・高齢者と福祉（高校のみ）・・・高齢者の心身の特徴、高齢者の尊厳など



小・中・高等学校の系統性・体系性の整理に関する論点

「B 生活経営・消費生活」(仮称)

○基本的な考え方

現行学習指導要領の内容Aのうち、生活を営む上での「営み方」(マネジメント)に関する学習内容を整理し、新B領域を構成

○内容項目の系統性

小・中・高等学校の系統性を重視し、現行の内容Aと内容Cに分かれていた内容について、次の3項目で整理してはどうか。

- ・生活設計・・・家庭生活を支える仕事、立場や役割、生活課題に対応した意思決定など
- ・生活と消費・・・買い物の仕組み、消費者の基本的な権利や責任、リスク管理の考え方など
- ・生活と環境・・・生活と身近な環境との関わり、生活が環境や社会に及ぼす影響、持続可能な消費など

※「生活経営」は、児童生徒の直接的な学習内容を示すものではなく、あくまで教師が指導するにあたっての考え方として示しているものである。

「C 食生活」(仮称)

○基本的な考え方

現行学習指導要領の内容Bのうち、生活を形づくる重要な要素である食に関する学習内容のみで整理し、新C領域を構成

○内容項目の系統性

小・中・高等学校の系統性を踏まえ、高等学校では、ライフステージに着目した項目と、食生活の科学的な理解を深める項目として現行内容Bの食生活に関する内容項目を整理してはどうか。

- ・ライフステージに応じた食生活・・・食品の栄養的特質、目的に応じた調理に必要な技能など
- ・調理実験(家庭総合のみ)・・・食品の調理上の性質など

「D 衣生活」(仮称)

○基本的な考え方

現行学習指導要領の内容Bのうち、生活を形づくる重要な要素である衣に関する学習内容のみで整理し、新D領域を構成

○内容項目の系統性

小・中・高等学校の系統性を重視し、現行内容Bの衣生活に関する内容を、次の2項目で整理してはどうか。

- ・衣服の着用、手入れ、活用・・・日常着の快適な着方、日常着の手入れ、被服の機能など
- ・布を用いた製作・・・目的に応じた縫い方、布を用いた物の製作、被服製作(家庭総合のみ)など

「E 住生活」(仮称)

○基本的な考え方

現行学習指導要領の内容Bのうち、生活を形づくる重要な要素である住に関する学習内容のみで整理し、新E領域を構成

○内容項目の系統性

小・中・高等学校の系統性や、時間軸と空間軸の視点を重視し、現行の内容Bの住生活に関する内容項目を整理してはどうか。

- ・健康、安全で快適な住まい・・・住まいの主な働き、住居の基本的な機能、防災などの安全に配慮した住生活など
- ・住まいの計画(家庭総合のみ)・・・快適で安全な住空間の計画など

「F 生活探究」(仮称)

○基本的な考え方

「家庭総合」において、A領域からE領域を貫く現代的な諸課題に関する問題解決的な学習を行う領域として、新F領域を構成

○内容項目の系統性

高等学校の「家庭総合」のみで実施する問題解決的な学習として「生活探究」という内容項目で整理してはどうか。

議題3 系統性・体系性の整理

- ✓ 小中高校の系統性・体系性について、どのように整理するのか

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
A 家族・家庭生活 (仮称)	(1)自分の成長と家族・家庭生活	(1)自分の成長と家族・家庭生活	(1)生涯発達と現在の自分	(1)生涯発達と現在の自分
		(2)幼児の生活と家族	(2)乳幼児の生活と保育	(2)乳幼児の生活と保育
	(2)家族・家庭生活と地域との関わり	(3)家族・家庭生活と地域との関わり	(4)家族・家庭生活と共生社会	(4)家族・家庭生活と共生社会
	(3)生活の課題と実践	(4)生活の課題と実践	(5)生活の課題と実践【個人・協働】	(5)世代を超えて支え合う地域社会 (6)生活の課題と実践【個人・協働】
B 生活経営・消費生活 (仮称)	(1)家庭生活と仕事	(1)家庭生活と生活資源	(1)生涯の生活設計	(1)生涯の生活設計
	(2)家庭生活と消費	(2)家庭生活と消費	(2)生活と消費	(2)生活と消費
	(3)家庭生活と環境	(3)家庭生活と環境	(3)生活と環境	(3)生活と環境
		(4)生活の課題と実践	(4)生活の課題と実践【個人・協働】	(4)生活設計演習 (5)生活の課題と実践【個人・協働】
C 食生活 (仮称)	(1)食事の役割	(1)食事の役割と中学生の栄養の特徴	(1)ライフステージに応じた食生活	(1)ライフステージに応じた食生活
	(3)栄養を考えた食事	(2)中学生に必要な栄養を満たす食事		(2)調理実験
	(2)調理の基礎	(3)日常食の調理と地域の食文化		
		(4)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践【個人・協働】	(3)生活の課題と実践【個人・協働】
D 衣生活 (仮称)	(1)衣服の着用と手入れ	(1)衣服の選択と手入れ	(1)ライフステージに応じた衣生活	(1)ライフステージに応じた衣生活
	(2)布を用いた製作	(2)布を用いた製作		(2)被服製作
		(3)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践【個人・協働】	(3)生活の課題と実践【個人・協働】
E 住生活 (仮称)	(1)快適な住まい方	(1)安全で快適な住まい方	(1)ライフステージに応じた住生活	(1)ライフステージに応じた住生活
				(2)住まいの計画
		(2)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践【個人・協働】	(3)生活の課題と実践【個人・協働】
F 生活探究 (仮称)				(1)生活探究

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
A 家族・家庭生活（仮称）	(1)自分の成長と家族・家庭生活 () ・自分の成長の自覚 ・家庭生活と家族の大切さ	(1)自分の成長と家族・家庭生活 () ・自分の成長と家族や家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能、家族や地域の人々との協力・協働	(1)生涯発達と現在の自分 () ・人の一生、自己と他者、社会との関わりと様々な生き方 ・生涯発達の視点からの青年期の課題、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わり () ・家庭や地域のよりよい生活の創造、自己の意思決定に基づく行動	(1)生涯発達と現在の自分 () ・人の一生、自己と他者、社会との関わりと様々な生き方 ・生涯発達の視点からの各ライフステージの特徴と課題、青年期の課題、意思決定の重要性 ・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 () ・家庭や地域のよりよい生活の創造、自己の意思決定に基づく責任のある行動
		(2)幼児の生活と家族 () ・幼児の発達と生活の特徴、幼児との関わり方 () ・幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること	(2)乳幼児の生活と保育 () ・乳幼児期の心身の発達、乳幼児期の生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能 () ・子供を生き育てることの意義、子供の発達のための親や家族及び地域や社会の果たす役割	(2)乳幼児の生活と保育 () ・乳幼児期の心身の発達、乳幼児期の生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援、子供の発達に応じて適切に関わるための技能 ・子供の福祉 () ・子供を生き育てることの意義、保育の重要性、子供の発達のための親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性、子供との適切な関わり方

※ 1 欄に記載されている学習内容については現行学習指導要領をベースにしたものであり、今後の議論を踏まえて見直ししていく予定である

※ 2 ()は「知識及び技能」、()は「思考力、判断力、表現力等」を指す。

<見直しイメージ(案)>

○家族・家庭生活関係

- ・「家族・家庭の機能」については、中学校と高校で内容が重複していることや、A・Bの各領域の考え方にに基づき整理が必要であること、また、高校の各ライフステージの学習と関連させることで効果的に学習することが可能となること等も踏まえて、中学校と高等学校における学習内容を整理してはどうか。

○その他

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
A 家族・家庭生活（仮称）			(3)高齢者の生活と福祉 ・高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護、生活支援に関する基礎的な技能 ・家族や地域及び社会の果たす役割の重要性	(3)高齢者の生活と福祉 ・高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能 ・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題、高齢者福祉 ・高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方
	(2)家族・家庭生活と地域との関わり ・家族との触れ合いや団らん ・地域の人々との協力 ・家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫すること	(3)家族・家庭生活と地域との関わり ・よりよい家族関係 ・地域の人々との関わり方 ・家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること	(4)家族・家庭生活と共生社会 ・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援 ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性	(4)家族・家庭生活と共生社会 ・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援 ・家庭と地域との関わり、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義 ・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性
				(5)世代を超えて支え合う地域社会 ※多様な世代の人々と実際に関わる活動等を想定
	(3)生活の課題と実践	(4)生活の課題と実践	(5)生活の課題と実践 【個人・協働】	(6)生活の課題と実践 【個人・協働】

※ 1 欄に記載されている学習内容については現行学習指導要領をベースにしたものであり、今後の議論を踏まえて見直ししていく予定である
 ※ 2 ()は「知識及び技能」、()は「思考力、判断力、表現力等」を示す。【個人・協働】は、個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）（いずれも仮称）を示す。

<見直しイメージ（案）>

○高齢者関係

- ・ 社会変化への対応の観点から、地域の高齢者が占める割合が増えている現状等も踏まえ、高齢者との関わりなどで、認知機能、身体機能、言語機能の低下や、そうした特徴に応じた関わり方の学習について整理してはどうか。

○その他

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
B 生活経営・消費生活（仮称）	(1)家庭生活と仕事 ・家庭生活を支える仕事と生活時間の有効な使い方 ・家庭の仕事の計画を考え、工夫すること	(1)家庭生活と生活資源 ・家族の互いの立場や役割 ※小学校の学習と高等学校の学習をつなぐ学習内容を想定	(1)生涯の生活設計 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理 ・生涯を見通した生活課題に対応した意思決定 ・生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活、生活設計	(1)生涯の生活設計 ・生涯を見通した生活課題に対応した意思決定 ・生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源、情報の収集・整理 ・生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活、生活設計
	(2)家庭生活と消費 ・買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さと計画的な使い方、身近な物の選び方、買い方、購入するために必要な情報の収集・整理 ・購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫すること	(2)家庭生活と消費 ・購入方法や支払いの特徴、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 ・消費者の基本的な権利と責任 ・物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること	(2)生活と消費 ・家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理 ・消費者の権利と責任、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定、契約の重要性、消費者保護の仕組み、生活情報の適切な収集・整理 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性 ・責任ある消費	(2)生活と消費 ・家計の管理、生活における経済と社会との関わり ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方、情報の収集・整理 ・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定、責任ある消費、生活情報の収集・整理 ・消費者の権利と責任、消費者問題や消費者の自立と支援、契約の重要性、消費者保護の仕組み ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性 ・責任ある消費行動
	(3)家庭生活と環境 ・自分の生活と身近な環境との関わり、環境に配慮した物の使い方 ・環境に配慮した生活について物の使い方などを考え、工夫すること	(3)家庭生活と環境 ・自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響 ・身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動について考え、工夫すること	(3)生活と環境 ・生活と環境との関わり、持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義 ・安全で安心な生活と消費	(3)生活と環境 ・生活と環境との関わり、持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義 ・安全で安心な生活と消費
			(4)生活の課題と実践 【個人・協働】	(4)生活設計演習 ※生活設計シミュレーション活動等を想定 (5)生活の課題と実践 【個人・協働】

※1 欄に記載されている学習内容については現行学習指導要領をベースにしたものであり、今後の議論を踏まえて見直ししていく予定である

※2 ()は「知識及び技能」、()は「思考力、判断力、表現力等」を示す。【個人・協働】は、個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）（いずれも仮称）を示す。

<見直しイメージ（案）>

○生活設計関係

- ・中学校においては、小学校「家庭生活と仕事」と高等学校の「生涯の生活設計」をつなぐ学習内容を設ける方向で整理してはどうか。
- ・高等学校においては、社会保障や奨学金などの社会制度について、その活用の在り方についても学習する方向で整理してはどうか。

○消費生活・金融経済教育関係

- ・学校段階をまいて一部重複する事項について、児童生徒の発達段階に応じて内容を整理してはどうか。一方で、社会変動に合わせた内容とするための見直しを図る方向で整理してはどうか。

○その他

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
C 食生活 (仮称)	(1)食事の役割 ・食事の役割と食事の仕方	(1)食事の役割と中学生の栄養の特徴 ・中学生の栄養の特徴と健康によい食習慣	(1)ライフステージに応じた食生活 ・ライフステージに応じた栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能 ・おいしさの構成要素、食品の調理上の性質、食品衛生、目的に応じた調理に必要な技能	(1)ライフステージに応じた食生活 ・食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化、食と人との関わり ・ライフステージの特徴や課題、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能 ・おいしさの構成要素、食品の調理上の性質、食品の衛生、目的に応じた調理に必要な技能
	・楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え、工夫すること	・健康によい食習慣について考え、工夫すること	・食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活	・健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造、日本の食文化の継承・創造
	(3)栄養を考えた食事 ・栄養バランスを考えた1食分の献立の作成方法 ・1食分の献立についての栄養のバランスを考え、工夫すること	(2)中学生に必要な栄養を満たす食事 ・中学生の1日分の献立作成の方法 ・中学生の1日分の献立について考え、工夫すること		
	(2)調理の基礎 ・安全や衛生的な調理（ゆでる・いためる）の仕方と調理計画、伝統的な日常食の調理 ・おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫すること	(3)日常食の調理と地域の食文化 ・食品の選択や保存、調理（焼く、煮る、蒸す、生肉・生魚の扱い）の仕方と調理計画、地域の食文化と和食の調理 ・日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること	(2)生活の課題と実践 【個人・協働】	(2)調理実験 ※食品に関する調理実験を想定
		(4)生活の課題と実践	(3)生活の課題と実践 【個人・協働】	

※1 欄に記載されている学習内容については現行学習指導要領をベースにしたものであり、今後の議論を踏まえて見直ししていく予定である

※2 ()は「知識及び技能」、()は「思考力、判断力、表現力等」を示す。【個人・協働】は、個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）（いずれも仮称）を示す。

<見直しイメージ（案）>

○調理実習・実験関係

- ・高等学校では、「基本的方向性（案）」を踏まえ「家庭基礎」では調理実習を通じた理解、「家庭総合」では調理実験を通じた科学的な理解を深める内容で整理してはどうか。

○食文化関係

- ・郷土料理・行事食については、中学校では生活文化の継承の観点をより重視するとともに、高等学校でも生活文化の継承の観点から、「ライフステージに応じた食生活」に関する項目（案）の中で「地域の伝統的な行事食や郷土料理」に関する内容を扱う方向で整理してはどうか。

○その他

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
D 衣生活 (仮称)	(1)衣服の着用と手入れ ・衣服の主な働き、日常着の快適な着方 ・日常着の手入れ ・日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること	(1)衣服の選択と手入れ ・衣服と社会生活との関わり、衣服の適切な選択、衣服の計画的な活用、材料や状態に応じた日常着の手入れ ・衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること	(1)ライフステージに応じた衣生活 ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理 ・材料、被服構成、被服衛生、被服の計画・管理に必要な技能 ・被服の機能性や快適性、安全で健康や環境に配慮した被服の管理、目的に応じた着装	(1)ライフステージに応じた衣生活 ・衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化、被服と人との関わり ・ライフステージの特徴や課題、身体特性と被服の機能及び着装、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の管理・計画に必要な情報の収集・整理 ・被服材料、被服構成、被服衛生、被服管理 ・目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装、日本の衣文化の継承・創造、
	(2)布を用いた製作 ・製作に必要な材料や手順と製作計画、目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱い ・生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画を考え、工夫すること	(2)布を用いた製作 ・製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱い ・資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること		(2)被服製作 ・被服製作
		(3)生活の課題と実践	(2)生活の課題と実践 【個人・協働】	(3)生活の課題と実践 【個人・協働】

※ 1 欄に記載されている学習内容については現行学習指導要領をベースにしたものであり、今後の議論を踏まえて見直ししていく予定である

※ 2 ()は「知識及び技能」、()は「思考力、判断力、表現力等」を示す。【個人・協働】は、個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）（いずれも仮称）を示す。

<見直しイメージ（案）>

○衣服の再利用関係

- ・中学校の「衣服等の再利用の方法」については、衣服の計画的な活用方法の一つとして扱い、生徒が必要に応じて製作の学習を行う際に取り入れる方向で整理してはどうか。

○製作関係

- ・布を用いた製作については、小・中・高等学校の系統性も踏まえつつ、知識及び技能を段階的に習得し、活用するように各学校段階で発達段階に応じて扱う内容を整理してはどうか。
- ・高等学校の「家庭総合」では、「基本的方向性（案）」を踏まえ、実践的・体験的な活動である被服製作を通して、「ライフステージに応じた衣生活」をより質が高い深い学びへと繋げていく方向で学習する内容を整理してはどうか。

○その他

	小学校	中学校	高等学校「家庭基礎」	高等学校「家庭総合」
E 住生活 (仮称)	(1)快適な住まい方 ・住まいの主な働き、季節の変化に合わせた住まい方、住まいの整理・整頓や清掃の仕方 ・季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫すること	(1)快適で安全な住まい方 ・家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家族の安全を考えた住空間の整え方 ・家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること	(1)ライフステージに応じた住生活 ・ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能、適切な住居の計画・管理に必要な技能 ・住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わり、防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境の工夫	(1)ライフステージに応じた住生活 ・住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化、住まいと人との関わり ・ライフステージの特徴や課題、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能、住生活の計画・管理に必要な機能 ・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画、快適で安全な住空間を計画するために必要な情報の収集・整理 ・ライフステージと住環境に応じた住居の計画、防災などの安全や環境に配慮した住生活とまちづくり、日本の住文化の継承・創造
				(2)住まいの計画 ※平面デザインの計画等を想定
			(2)生活の課題と実践 【個人・協働】	(2)生活の課題と実践 【個人・協働】
F 生活探究 (仮称)				(1)生活探究

※ 1 欄に記載されている学習内容については現行学習指導要領をベースにしたものであり、今後の議論を踏まえて見直ししていく予定である

※ 2 ()は「知識及び技能」、()は「思考力、判断力、表現力等」を示す。【個人・協働】は、個人探究（ホームプロジェクト）、協働探究（学校家庭クラブ活動）（いずれも仮称）を示す。

<見直しイメージ（案）>

○安全な住空間関係

- ・ 中学校の「家族の安全を考えた住空間の整え方」のうち、「家庭内事故の防ぎ方」については、高等学校の「ライフステージに応じた住生活」の中で幼児や高齢者の学習と関連させながら扱うことでより効果的な学習ができることを踏まえ、従来、中学校で学習していた内容も含め、高等学校で重点的に学習する内容としてはどうか。

○防災関係

- ・ 高等学校の「家庭総合」では、「基本的方向性（案）」を踏まえ、共生の観点を重視し、より質が高い深い学びへと繋げる方向で学習する内容を整理してはどうか。

○住環境関係

- ・ 「家庭総合」において、住環境をよりよく整え、より総合的に住まい方を捉えられるようにする観点から、「平面計画・インテリア計画」を扱う内容として整理してはどうか。

○その他

參考資料

現行学習指導要領における家庭科の内容項目一覧（小・中学校）

小学校

第5・6学年

A 家族・家庭生活

- (1) 自分の成長と家族・家庭生活
- (2) 家庭生活と仕事
- (3) 家族や地域の人々との関わり
- (4) 家族・家庭生活についての課題と実践

B 衣食住の生活

- (1) 食事の役割
- (2) 調理の基礎
- (3) 栄養を考えた食事
- (4) 衣服の着用と手入れ
- (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
- (6) 快適な住まい方

C 消費生活・環境

- (1) 物や金銭の使い方と買物
- (2) 環境に配慮した生活

中学校

家庭分野

A 家族・家庭生活

- (1) 自分の成長と家族・家庭生活
- (2) 幼児の生活と家族
- (3) 家族・家庭や地域との関わり
- (4) 家族・家庭生活についての課題と実践

B 衣食住の生活

- (1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴
- (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事
- (3) 日常食の調理と地域の食文化
- (4) 衣服の選択と手入れ
- (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
- (6) 住居の機能と安全な住まい方
- (7) 衣食住の生活についての課題と実践

C 消費生活・環境

- (1) 金銭の管理と購入
- (2) 消費者の権利と責任
- (3) 消費生活・環境についての課題と実践

現行学習指導要領における家庭科の内容項目一覧（高等学校）

高等学校

家庭基礎

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉**
 - (1) 生涯の生活設計
 - (2) 青年期の自立と家族・家庭
 - (3) 子供の生活と保育
 - (4) 高齢期の生活と福祉
 - (5) 共生社会と福祉

- B 衣食住の生活の自立と設計**
 - (1) 食生活と健康
 - (2) 衣生活と健康
 - (3) 住生活と住環境

- C 持続可能な消費生活・環境**
 - (1) 生活における経済の計画
 - (2) 消費行動と意思決定
 - (3) 持続可能なライフスタイルと環境

- D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動**

家庭総合

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉**
 - (1) 生涯の生活設計
 - (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会
 - (3) 子供との関わりと保育・福祉
 - (4) 高齢者との関わりと福祉
 - (5) 共生社会と福祉

- B 衣食住の生活の科学と文化**
 - (1) 食生活の科学と文化
 - (2) 衣生活の科学と文化
 - (3) 住生活の科学と文化

- C 持続可能な消費生活・環境**
 - (1) 生活における経済の計画
 - (2) 消費行動と意思決定
 - (3) 持続可能なライフスタイルと環境

- D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動**